

平成29年度第2回岡山県和牛改良委員会 議事概要

- 1 日 時 平成29年10月24日(火)13:30～
- 2 場 所 全農岡山県本部総合家畜市場(真庭市草加部)
- 3 出席者 委員 : 9名 事務局 : 5名
- 4 諮問事項

(1)直接検定終了牛等の措置について

「義勝珠」は、全共4区(系統雌牛群)で出品された「たま系」からの造成であり、期待育種価が高く、体型面では、体幅、体深に優れていることから選抜することとした。

「新初義」並びに「新秀矢吹」については、第11回和牛全共宮城大会に出品され、それぞれ、優等10席と1等3席の成績を収めた。全共1区への出品の趣旨を鑑み、これら2頭を選抜することとした。

ただし、今回選抜した3頭を一度に後代検定のための調整交配を実施することは困難なことから、畜産研究所の方で優先順位を決定し、準備の整った牛から調整交配を実施することとされた。

なお、全共補欠牛の「義沢利2」については、体型面で難があることから、去勢後肥育されることとなった。

(2)後代検定終了牛の措置並びに種雄牛の繋養計画について

1)後代検定終了牛の措置(案)

【新岡光81】

検定14頭中13頭が終了し、肉量、肉質ともに成績が良好であったため、基幹種雄牛に推薦することとされた。

なお、本牛は家畜改良事業団との協力検定を実施しており、その検定は、全て終了している。(事業団としての選抜会議については、来年2月に開催予定)

ただし、本牛は、精液ストローの製造が芳しくないため、在庫本数が一定量確保されるまでは、改良上必要と判断される場合を除いて、一般への譲渡販売はされないこととされた。

【茂花矢】

検定18頭全て終了。脂肪交雑は平均7.1であるものの、肉量・肉質ともにバラツキが大きく、父方から期待されたロース芯面積の改良も芳しくないことから非選抜とされた。

なお、本牛は、脂肪壊死症を主因にすでに死亡している。

2) 種雄牛の繋養計画について

畜産研究所における種雄牛舎の繋養可能頭数は18頭であり、繋養中の種雄牛を計画的に淘汰する必要がある。

今年度、9月に「美咲鶴」を廃用しているが、さらに2頭を廃用淘汰する必要がある。

年齢的には、「新初英」、「北盛栄」が高齢であるが、第11回和牛全共での成績や代替牛の有無等を考慮し、「北盛栄」の廃用を決定した。

残り1頭の廃用については、候補種雄牛の検定結果を見ながら年度内に判断することとした。

(3) 第11回全国和牛能力共進会の結果について

- ・岡山県出品牛の成績紹介

(4) その他

1) 岡山和牛におけるゲノミック評価による選抜実用化について

- ・当初計画に対するサンプル採取進捗状況は50%
- ・農協別計画頭数と進捗状況に差が生じているが、調整しながらサンプル採取を継続することとされた。